



研究部会報告

● 21世紀モノ造りマネジメント ●

・第1回

日時：4月23日(金) 18:00~20:00

出席者：14名

場所：青山学院大学青山キャンパス総研ビル9階第16会議室

テーマと講師：「適正在庫管理を支えるRFMクラシファイおよびAPS」

佐藤敏彦（日立金属株式会社）

金属製品の生産における業務改善について、在庫生産品と受注生産品の仕分けでよく使われる売上構成を中心とするABC分析ではなく、頻度を中心に考えたRFM分析を利用することによって効果的に在庫を削減した事例を中心に、APSの利用法等を交えて詳しく紹介があった。

● 待ち行列 ●

・第178回

日時：5月15日(土) 14:00~16:30

出席者：20名

場所：東京工業大学西8号館(W)809号室

テーマと講師：

(1)「多次元空間上の定常なコックス・ショットノイズの上下界と単調性について」

三好直人（東京工業大学）

多次元空間上の定常なコックス過程（二重に確率的なポワソン過程）によって与えられるショットノイズ過程とマックス・ショットノイズ過程と呼ばれる二つの確率場に対して、ある確率順序の意味での上下界が導かれた。また、コックス過程の強度確率場にある種の正則性を仮定すると、ショットノイズの単調性が示された。

(2)「マルコフ変調される到着とサービス速度をもつ単一サーバ待ち行列」

滝根哲哉（京都大学）

時間スケールを変更することで対応する一定サービス速度の待ち行列が構築できることを利用して、元の可変サービス待ち行列の時間平均量が、一定サービス速度の待ち行列の時間平均量を用いて表現できることを示した。さらに、可変サービス待ち行列における各クラスの客の定常実待ち時間分布のラプラス・スティルチェス変換形などが導かれた。

● 意思決定とOR ●

・第6回

日時：5月22日(土) 14:30~17:00

出席者：12名

場所：金沢大学サテライトプラザ講義室

テーマと講師：

(1)「独占的競争下における動学的ヘクシャー＝オリーン・モデル」

池下研一郎（金沢大学経済学部）

生産要素として未熟練労働と人的資本が存在し、中間財市場が独占的競争にある小国開放成長モデルは、低開発水準と高開発水準に対応する2つの定常解が存在し、経済の収束が一意でないことが示される。また比較定常状態分析を行うことで、パラメータの変化が各定常解に対して相反する効果をもたらすことが示される。

(2)「ラフ集合における決定表縮約とそのシステム開発について」

高木 昇，韓 基良（富山県立大学工学部）

ラフ集合は、あいまいな情報システム表からの分類規則を導出するための基本概念として近年注目されている。我々は、論理簡単化技術を応用した情報システム表の縮約を検討しており、そのプロトタイプ・システムをWindowsOS上で開発した。ラフ集合の縮約、論理簡単化による縮約、および開発したシステムの詳細が紹介された。